

第9期総合介護市民協議会（令和7年度第1回） 会議概要

日 時：令和7年10月2日（木） 14：15～16：15

場 所：ひまわり館2階 研修室2・3

出席者：安田会長、真部委員、藤居委員、藤田委員、中谷委員、北川委員、山本委員、深尾委員、坂井委員、高橋委員、小林委員、東森委員、中村委員

事務局：介護保険課・長寿福祉課、JMC株式会社（委託業者）

傍聴者：なし

1. 開会

事務局 皆さんこんにちは。それでは定刻となりましたので、ただ今より、令和7年度第1回目の近江八幡市総合介護市民協議会を開催いたします。本日は大変お忙しいところ、ご出席をいただきまして誠にありがとうございます。本日の司会を務めます、介護保険課の方山と申します。どうぞよろしくお願いいたします。協議に先立ちまして、2名委員様の変更がありましたので、ご紹介をさせていただきます。湖東歯科医師会の「高田 克重（タカダ カツゲ）」委員が辞任され、新しく「真部 滋記（マヘ シゲキ）」委員にご就任いただきました。続きまして、近江八幡市介護相談員連絡会の「善住 昌弘（ゼンジュウ マサヒロ）」委員が辞任され、新しく「山本 敏雄（ヤマモト トヲ）」委員にご就任いただきました。それでは簡単に自己紹介をいただきたく思います。（それぞれ委員から自己紹介）

事務局 新しくなられました委員の任期につきましては、前任委員の残任期間となりますので、およそ1年半となりますが、どうぞよろしくお願いいたします。それではまず、配付しております資料について確認をさせていただきます。
（資料1）令和7年度近江八幡市介護保険事業の状況について
（資料2）第9期計画の取組状況について
（資料3）アンケート調査概要資料
（資料4）介護予防・日常生活圏域ニーズ調査（案）
（資料5）在宅介護実態調査（案）
（資料6）介護支援専門員調査（案）
（資料7）介護保険サービス等参入意向調査（案）
（資料8）市民協議会運営スケジュール

これらは郵送で送らせて頂いております。それと本日の配布資料といたしまして、第9期近江八幡市総合介護市民協議会の名簿をA4用紙で配布させていただいております。資料が不足されている方はいらっしゃいますでしょうか。それではお手元の会議次第に基づいて進めさせていただきます。まず初めに安田会長よりご挨拶をお願いいたします。

会長 皆さんこんにちは。10月ということで、業務の忙しい時に出席していただきましてありがとうございます。今回、第9期の令和7年度の開催になりまして、いわゆる調査をしたり、またそちらの集計とか冊子のまとめをしていただくコンサルタントの会社なども決まりまして、今回から計画の方を練っていくことになると思います。よろしくお願いいたします。

また、先ほどもありましたが、新しく委員の方に就任して頂きましてありがとうございます。途中と言いつつも1年半、結構長めにありますが、どうぞよろしくお願いいたします。

また、コンサルの方、JMC様に来ていただきまして、今回このアンケートを色々と作成していただきました。今回、委員会ではその中身を、アンケートを充実したもの

になるように委員の皆様方に質問をさせてもらいながらしていきたいと考えております。今日はそうしたことで色々ご負担をかけることもあるかと思いますが、ご意見の方を頂戴したいと思っております。よろしくお願いいたします。

事務局 ありがとうございます。それでは早速協議に移らせていただきます。近江八幡市介護基本条例第 14 条第 2 項の規定により、協議会の議長は会長が務めることとなっております。安田会長よろしくお願いいたします。

会長 はい、よろしくお願いいたします。座って失礼いたします。では、近江八幡市介護基本条例の第 14 条第 2 項により、議長を務めさせていただきます安田と申します。よろしくお願いいたします。議事の進行につきまして委員の皆様、先生方のご協力をお願いしたいと思います。では最初に事務局から委員の出席状況について報告よろしくお願いいたします。

事務局 はい、ご報告いたします。総合介護市民協議会の人数は 17 名です。既に事務局へ欠席の報告をいただいている委員は、柴田委員、村北委員、廣瀬委員、塚本副会長より、欠席報告を頂いております。ただいまの出席委員数は 13 名です。したがって、近江八幡市総合介護協議会基本条例第 14 条第 3 項の規定による定足数である過半数 9 名を超えておりますので、本協議会は成立をしていることをご報告申し上げます。

会長 ありがとうございます。ただいま事務局から本協議会は成立している旨報告がありました。次第に基づいて進行の方を続けさせていただきたいと思っております。本日、報告の方、7 点となっております。今年度は第 9 期総合介護計画の中間年度にあたります。で、資料 2 第 9 期計画の取り組み状況については資料の通りになります。

その一方で現在、次期計画策定に向けた調査の実施、先ほどアンケートについてお話をいただきましたが、そうした調査の実施を控えた大切な時期にあたります。ですので、今回は調査票の内容を、アンケート項目の内容について協議する時間に重きを置きたいと考えておりますがどうでしょうか、よろしいでしょうか。

(委員より、異論なし)

会長 はい。ありがとうございます。それでは、令和 7 年度近江八幡市介護保険事業の状況について、近江八幡市の高齢者認定者の状況について事務局から説明を受けた上で、資料 4 から 7 までの各アンケート内容についてご報告をいただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

事務局 介護保険課の吉田です。よろしくお願いいたします。それではお配りしております資料 1「令和 7 年度近江八幡市介護保険事業の状況について」本市の状況をご報告させていただきます。まず、2 ページ目をご覧ください。

「1 人口ピラミッド」について。本市の人口は、令和 7 年 8 月 1 日現在で、男性 40,172 人、女性 41,536 人、総人口 81,708 人となっています。年齢 5 歳階級別に見ると、男性は 50～54 歳の人口が最も多く、次いで 45～49 歳、40～44 歳が続いています。女性は 50～54 歳の人口が最も多く、次いで 75～79 歳、45～49 歳が多い年齢層となっています。

次に、3 ページをご覧ください。「2 計画と実績の比較 ①65 歳以上人口と高齢化率」についてです。令和 7 年度の 65 歳以上人口と高齢化率について、各年 9 月末時点の推移を示したグラフです。令和 5 年 9 月末時点で高齢化率は 28.0%に達し、そこから令和 6 年および令和 7 年 9 月 1 日時点の高齢化率は 28.0%で変化が無く、横ばいの状態が続いております。全体での平均は 28.0%ですが、中学校区別に高齢化率をみると、安土中学校区、八幡中学校区ではそれぞれ 29.2%、28.9%と高く、八幡東中学校区が 26.1%と全体平均よりも低くなっています。さらに小学校区別では、島小学校区が 41.2%と 1 番高く、次いで馬淵小学校区が 34.7%、武佐小学校区が 32.7%と続いています。これらに対し、金田小学校区が 22.9%と最も低く、次いで岡山小学校区が 26.0%、老蘇小学校区が 29.0%と続いており、地域によって高齢者の占める割合には

大きく偏りがあることが伺えます。

次に、4ページをご覧ください。「第1号被保険者（前期・後期高齢者）の推移（年度末）」について。高齢者数の増加に併せて、後期高齢者の割合も年々増加しています。これは、団塊の世代が高齢者となり、さらには後期高齢者となっているためと考えられます。令和3年度以降、75歳以上である後期高齢者の割合が、65歳から74歳までの前期高齢者の割合よりも大きくなりました。次に、「② 要支援・要介護認定者数と認定率」について。認定率（第1号被保険者数に対する要支援・要介護認定者数の比率）はここ数年ずっと14.7%前後で横ばいに推移していましたが、令和5年度から令和6年度にかけて14.7%から15.4%とやや増加しました。認定率は近年、やや増加していますが、平均介護度は令和6年4月以降減少をしています。要因としては、要支援1、2と要介護1が増加している一方で、要介護2以降の認定者数が減少していることが挙げられます。

5ページをご覧ください。「③ 要介護度別認定者数と受給者数の推移」についてです。認定者数は介護保険制度がスタートした平成12年度（1,413人）と比較すると約2.56倍に増えています。要介護認定者数がH21年度から1.6倍に増加し、要支援認定者数は平成27年度から減少していましたが、令和5年度末頃から要支援1～要介護1までの人数が増加に転じています。

6ページをご覧ください。「④年齢構成別の認定者数」について。年齢構成別の要介護（要支援）認定率をみると、80歳を過ぎてから認定率が急上昇しています。また、75歳以上の後期高齢者では24.7%の方が要支援・要介護認定を受けています。令和4年と令和7年で比較すると、75歳以上の認定率が25.8%から24.5%に低下をしています。全体の高齢者人口は増加をしています。65～74歳までの人口がおおよそ1,700人減少し、75歳以上人口がおおよそ1,700人増加をしました。認定者数も70～74歳の認定者数はやや減少しましたが、その他のすべての年齢層で認定者数は増加となりました。以上になります。

会長

ありがとうございます。それではただいま事務局から報告がありましたがこの件に関しまして質問等ございましたらお願いいたします。よろしいですかね、また何か後で時間がありましたら、振り返ってでも結構ですので、その時にご意見いただければと思います。

それでは次に、第9次計画の取り組み状況につきまして、ここは省略でよろしかったですかね。はい、資料の通りということと。

それでは、第10期の介護総合介護計画の策定に向けた各種事前調査の概要につきまして説明をよろしくお願いいたします。提案の方もよろしくお願いいたします。今回、資料3に基づいて説明を進めさせていただきますが、この第10期総合介護計画の策定に向けた調査アンケート等を業務委託させていただきました JMC 株式会社様からご説明、ご提案をさせていただきます。JMC 様よろしくお願いいたします。

JMC

はい、JMC 株式会社と申します。こういった調査・計画の作成のお手伝いをさせていただきます。では座って失礼いたします。ではまず、資料3についてご説明いたします。こちらの資料をお手元にご準備いただけますでしょうか。まず、今回アンケート調査を行います。4種類のアンケートを行いますので、どのような方を調査対象としているかということや、こういった活用をするために調査をするのかについて、資料3を用いてご説明させていただきたいと思っております。では、資料3をご覧ください。4つ調査があると申し上げましたが、一番左側の介護予防・日常生活圏域ニーズ調査をご覧ください。少し名称が長いので今後はニーズ調査と呼ばさせていただきます。このニーズ調査の対象の方は、要介護をお持ちではない65歳以上の高齢者の方になりまして、比較のお元気な高齢者の方に対して行う調査となっております。この調査の目的・活用といたしましては、要介護状態になる前の高齢者の方のお体の状態ですとか、社会参加の状況を把握することで地域の課題を明らかにして、今後の施策に生かすことを目的にしております。

続きまして、左から2つ目の在宅介護実態調査というところの欄をご覧ください。こちらは逆に高齢者の内、要介護認定を持たれている方を対象にした調査となっております。

ります。ですので、介護が必要な方に対して行うのが在宅介護実態調査となっております。この在宅介護実態調査の目的・活用といたしましては、要介護認定者や、主な介護者の状況を把握しまして、どうしたら要介護認定者が在宅で生活を続けることができるのかや、介護者の方が就労と介護の両立をしながら続けていくにはどういったサービスのあり方があったら良いかといったところを検討するために行うものとなっております。これら2つの調査につきましては、国の方からこういう形で調査をしてくださいという雛形が提示されており、設問のところに記載していますが、国が全国の市町村に必ずこれを聞いてくださいという必須項目と、これも聞いたら良いのではないですかというオプション項目と、市独自に聞く質問を設ける独自項目の3つからなる調査となっております。

では続いて右から2つ目の介護支援専門員調査のところをご覧ください。介護支援専門員調査はケアマネジャーさんを対象に行う調査となっております。普段、要介護状態の高齢者の方からご相談を受けてらっしゃるケアマネジャーさんから見て、どういったサービスか今後必要であるかということや、実際にケアマネジャーさんの業務の課題としてどのようなものがあるのかについて把握して、今後の政策を検討するために実施するものとなっております。

最後に、1番右側にあります介護保険サービス等参入意向調査の欄をご覧ください。こちらは介護保険サービスを実際に提供されている事業所さんに対して行う調査となっております。介護サービス提供事業所さんが今後、どのようなサービスを展開したいと思っているのかについて把握したり、また、今、介護人材の確保が課題であると多くの自治体さんで言われていますが、そういった介護人材の確保や介護の現場における生産性の向上に関して、事業所の現状を把握するために行うものになります。ケアマネジャーさんの調査と介護保険サービスの事業所さんに対する調査というのは、全て市独自の項目となっております。

最後に、実際にこれらの調査を実施する時期についてですが、ニーズ調査、在宅介護実態調査、介護支援専門員調査につきましては11月から12月頃を調査期間として予定しております。また、介護保険サービス事業所の調査につきましては、来年の春頃を予定しております。この介護保険サービス等参入意向調査だけ実施時期が遅いのは、サービスの今後の展開をお聞きする設問があるため、あまりに早い時期に聞いてしまうと、会社としてまだ計画を立てていないためにまだわからないということもあるかと思うので、確認する時期を少し後ろにする予定になっております。資料3については説明以上になります。

会長

はい、ありがとうございます。ただいまJMC様から説明をしていただきましたアンケート調査の概要につきまして、質問等ございましたらお願いいたします。よろしいですかね。はい。それではこの後、各調査につきまして説明を続けてもらいたと思います。それでは、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の実施につきまして、JMC様からよろしくお願いいたします。

JMC

はい。では続けて失礼いたします。ここからは各調査について具体的に調査票を見ながら説明させていただければと思います。まず、資料4と書かれました介護予防・日常生活圏域ニーズ調査という調査票をお手元にご準備いただけますでしょうか。先ほども申し上げましたが、ニーズ調査はどちらかというと元気な高齢者の方に対して行う調査となっております。この調査票を見ていただきますと、問1から問9まで、9つのテーマにわかれており、各テーマにつきましていくつかの質問が設定されております。国の方で決まっている設問もございまして、そちらについては変更が難しいため、まずは1から9の各テーマについて簡単にご説明しまして、特に市町独自の項目で、今回新規に設定しました項目について、その詳細をご説明できればと思います。

ではまず、1ページをご覧ください。1ページ問1のところで、「あなたのご家族や生活状況について」で、家族構成やお住まいの状況などに関する質問が入っております。ここは大きく新規項目はございません。続いて、問2、「からだを動かすことについて」というのは、例えば階段の手すりや壁を使わずに上っていますかといった体の状況について、体を動かすことについての設問が続いております。

2 ページをご覧ください。2 ページでは、問 3 「食べることについて」ということで、これは歯ですとか、口、口腔の健康状態について質問が続いております。ここでは特に大きい新規項目はございません。

続いて 3 ページ、問 4、「毎日の生活について」。これは自分で出かけているかとか、お食事の準備をしているかといった毎日の生活の状況についての質問が設定されております。ここでは新規項目が 2 点ございますので説明いたします。4 ページの真ん中あたりにあります (10) 「年数回以上、図書館に行きますか」という設問をご覧くださいませでしょうか。こちらが新規に追加されております。図書館というのは読書の機会を提供したり、住民が集う場所としてあるのですが、図書館と健康の関係について近年の研究などが発表されておまして、図書館が充実している、つまり、公共施設に投資することが健康長寿のまち作りに有効である可能性というのが示唆されています。そういうことも踏まえまして、近江八幡市において図書館に高齢者の方々が実際にどれぐらい行かれているかという現状を把握するために、設問を新設しております。

では、続きまして、同じページの (12) をご覧ください。(12) とその下の (12) ①② が新設の項目になっております。インターネットの利用に関する設問を追加しておまして、高齢者の方に情報提供をする時にどういう方法がいいのかを検討する資料としてこの設問を設定しております。

では 5 ページをご覧ください。5 ページ問 5 「地域での活動について」は地域活動に参加されているかについて聞く設問を設定しております。こちらも新規設問がございまして、6 ページの一番下をご覧くださいませでしょうか。(8) 「近江八幡市で行われている「商助」の取り組みについて知っていますか」という設問を追加しております。実は、その次の 7 ページの上にも、もう一度「商助」に関する質問を追加させていただいているのですが、近江八幡市での独自取り組み、長寿福祉課の取り組みについて皆さんがどれぐらいご存知なのかというところについて、現状を把握する設問を設定しております。

では、7 ページをご覧ください。7 ページ、問 6 「たすけあいについて」は高齢者の方と周りの方との助け合いの状況について聞く設問が並んでおります。ここは大きい設問の変更はございません。

続きまして 8 ページをご覧ください。8 ページ、問 7 「健康、介護予防について」は健康の状態や、介護予防の取り組みなどについて聞く設問が並んでおります。ここは新しい新規設問が 1 つございまして、9 ページをご覧くださいませでしょうか。9 ページの (9) 「日頃どのような運動を取り入れていますか」という設問が追加になっております。先ほど、75 歳以上の高齢者の方が増加されているという話がありましたが、今後やはり健康作りや介護予防の取り組みもさらに重要となってくることを踏まえまして、運動に関する設問が追加されております。

では、10 ページをご覧ください。10 ページ問 8 「認知症について」ですが、認知症については今回多く設問の追加がなされておりますが、介護保険計画を作る時に認知症施策推進計画と一緒に策定することになっておまして、認知症の人も共に社会の一員としていきいきと暮らせる社会となるように、現状を把握するための設問が追加されております。追加部分について申し上げます。まず、(5) 「あなたは認知症の人が住み慣れた地域で暮らしていくために、どのような地域住民の協力があると助かると思いますか」、(8) 「あなたや家族、身近な人が認知症になった場合、そのことを周囲に伝えてもいいと思いますか」という設問が追加になっております。そして、11 ページに進んでいただきまして、(9) 「認知症の人が地域社会の中で人格を持った 1 人の人間として尊重されていると思いますか」、(10) 「認知症の人も地域活動に役割を持って参加した方がよいと思いますか」、(11) 「今後、認知症施策を進めていくうえで、どのようなことに重点を置くべきだと思いますか」という設問が追加となっております。また、11 ページ最後の (14) 「高齢者の虐待に関する相談先として、どんなところを知っていますか」という設問が追加になっております。

では、12 ページをご覧ください。これが最後の問となっております。問 9 「その他」で新たに追加された項目は 2 つございます。13 ページの 1 番下をご覧ください。13 ページの (11) が追加になっております。「地震や風水害などの災害時に対し、対策していることはありますか」ということや、その災害時の支援体制作りに関する設問として、

新たに2つの項目が追加されております。以上がご説明になります。

会長 ありがとうございます。それでは、ただいま JMC 様からニーズ調査につきまして説明していただきましたが、この件に関しまして質問等ございましたらお願いしたいと思います。

会長 委員の方から、問3「食べることについて」2ページ3ページのところであるんですが、歯と健康に関する課題を拾える設問を考える上で、ご意見とかご助言とか、何かありましたらお願いいたします。他の項目でももちろん結構です。

委員 私、今日初めて出席させていただきましたので、まだこの会議の事とかわかっていないんですけども、日常介護に関して歯科の立場から思っていることを述べさせていただきます。失礼いたします。

 生きるためでしたら、歯って要らないんですよ。清潔には保っていただいて、生きるためには全然歯とか口腔はそんなに関係なく、喉なんですよ。特に耳鼻科の先生が専門ですけども、喉を守ることに関しましてどうしても耳鼻科だけでは足りないということで、近年、歯科の力を借りたいことで医科歯科連携ではございませんけれども、耳鼻科と訪問されている歯科医師とで喉を守ることの勉強をさせていただいております。生きるではなく、特に歯科が関係するのは、健康に生きるためにはやはり口腔の環境、それから、歯の大切さを皆さんに日々わかっていただいて、私達だけの力では足りないので現場の皆さんと協力し合いながら、口腔の環境を整えていこうという次第でございます。

 もう1つ歯科と言いますと、昔から言う虫歯と歯周病、この2大疾病に制度構築はしてきてはいるんですが、近年、この10年20年ぐらい前ですが口腔機能低下症というもう1つ三大疾病、3つ目の歯科の疾病ができて、口腔機能がそこに書かれている口の渴きとか、舌、ペロの動きとか機能とか口腔の機能、これが低下してる方を見つけて抽出して、そういう人たちを医科として、大きな違いは医科の場合は、医科の先生が見つけてお薬で治すっていう考え方でございますが、歯科ってなかなかお薬で治すっていうのがございませんので、そういう疾病を見つけて訓練ですね、リハビリで何とか治していこうっていうことですね。質問の趣旨とはちょっと違いましたけど。

会長 はい、ありがとうございます。歯医者は今、ここの分野だけじゃなくて、私達が健康に生きるっていうことで、歯科のことすごく重要視されている時です。今も、健康に生きるためという視点でご意見いただきましたので、アンケートを考えるうえでまた参考にいただければと思います。よろしくお願いいたします。

 それでは次、問7「健康・介護予防について」8ページ9ページが該当しますが、委員お二人をお願いしたいと思います。先生、よろしくお願いいたします。

委員 問7ですが、これでいいと思います。なかなか何が正解かわかりづらいというのがありますが、これだけ細かく聞いて頂けるならこれで良いかなと思います。

会長 ありがとうございます。素晴らしいということで。ありがとうございます。そうしましたら、委員さん、よろしくお願いいたします。

委員 健康について言えばいいですね。

会長 はい。もちろん他のところでもあればどうぞ。

委員 健康推進の活動として「自分たちの健康は自分達で」ということで、本当に1番基本的な食べることや体を動かすこと、塩分を減らすとか体操すること、野菜を食べましょうとか、そういうところから小さな小さな啓発活動を行っております。例えば、体操とかも訪問活動としてやらせていただきまして、それが今後も地道に浸透してい

ければ健康で過ごすところにつながっていけるんじゃないかなと思っています。以上です。

会長

はい。ありがとうございます。なかなか健康・介護予防も幅が広いので色々あると思います。ありがとうございました。

それでは問5「地域での活動について」5ページ、6ページ、7ページの途中まで、問6「たすけあいについて」7ページと8ページの途中になりますが、こちらにつきまして、委員お二人にお願いしたいと思います。最初に委員さん、お願いいたします。

委員

はい。問5と問6についてということですが、まさしく私ども社協の活動が大きく関わっているところだと思います。この前、大津市の瀬田の方の社協の委員さんとかがこちらの方にお見えになった時にお話をしたのですが、私どもはふれあいサロンを75歳以上の方を対象に、1人暮らしの方も対象で、ふれあいサロンをと呼び掛けているのですが、実際私も民生委員をしております、自分のところの地域はどうかというふうに振り返ってみると、最近、サロンが開けないんです。何故かという、一時に住宅開発とかで出来たお家の方々が、子供さんが自立して家を出て地元に戻ってこられない。そして、夫婦のどちらかが亡くなられて1人になられる。私どもは約250世帯ありますが170人の70歳以上の方々がいらっしゃいます。サロンを行う側も70歳以上。老老介護っていうよりも老々福祉やなっておりますが、そんな中で一気にここ5年ほどでサロンが開けなくなってきた。集会所自体が小さくて座る場所もない。そういう状況になっております。すると、結局何をしているのかといいますが、自分のところでは「活動してね。サロン開いてね」と言っているわりには自治会とタイアップをして商品券を配りながら、何かを持って行きながら、様子をうかがっているという状況です。高齢者の方も5年経つと、75歳の方は80歳になるともう足腰が不自由な方々というのはたくさんおられまして、家から出てくるのも億劫になるということがございます。それと、仲の良い友達がたくさんいると日ごろから地域の中でも同世代あるいは前後でおられると出てきやすいと言われておりますが、中で孤立をしておられる方、高齢の方でも地域で孤立をしておられる方というのはやはり億劫になってなかなか出にくいとよく私も耳にします。少し昔であれば憩いの場が友達のお家とか、あるいはここでも書かれていますコミュニティカフェとか、サロンとか書いておられますけれども、こういったところがありました。今はなくなっている。昨日もたまたまお米というか、電子レンジでチンをしたらできるお米をお配りしたのですが、家の雑草が繁茂していて「足が不自由なんで木を切っただけ」言われて少し困りましたが、そういう状況ですので、自分の立場では推進している側ではありますが、物理的になかなか開けない状況があるということです。どの設問かと言われると難しい部分がありますが、やはり居場所というのでしょうか、憩いの場があればいいなというふうに思います。以上です。

会長

ありがとうございます。続けて、委員さん、お願いしたいと思います。よろしくお願いします。

委員

まちづくり協議会でも会長をしている関係で是非ともお聞きしたいのですが、アンケート内容そのものではないのですが、アンケートの結果が非常に数字を知りたくてたまらないです。この結果について各学区毎に数値みたいなのは後でオープンにいただけるものでしょうか。それが聞きたかったです。

会長

はい、ありがとうございます。学区毎にデータはありますか。こちら、できそうな気はします。資料としてこの後、出ますでしょうか。

事務局

小学校区別に登録データ上管理をしておりますので、小学校区毎であれば改めてまとめさせていただいてお示しすることができます。

会長

よろしかったでしょうか。学区毎は調べることが出来ますが、ただ、町までは出来

ないと今返事をいただきました。そういった活用とか出来そうでしょうかね。もし、ある程度もう少し出来るようでしたらまた検討をお願いいたします。

それと先ほど、委員から色々意見いただきましたが、狭いとかキャパの問題とか、せっかく参加していききたいのに狭くて開けないというのはもったいない気がします。市町によっては開いても誰も来ないとか、誰もやってくれなくて開けない。ですので、近江八幡市はこのサロンとかをしているところで羨ましいという意見を他市とか他町で聞いたりしますので、また整備とかも合わせてお願いできればと思います。

項目とかで、例えば「参加していますか」というところがあったんですけども、出来ると言われた時に、6ページの1番上の両括弧の2とかですね、「どんなふういきいきまち作りを進めようとしたら参加したいですか」参加者としてとかですね。次が「企画運営として参加してみたいですか」とあるのですが、例えば「参加したくない」という方々は「どんな条件が揃えば参加したい、してもいいか」というふうなことも、今後、色んな方の参加に繋げようと思ったときに、そういうこともあるといいのかなと思ったりします。ただ、あんまり質問が多くなっても答える方が疲れてしまうので、必要に応じて可能でしたら委員から提案あったことを取り入れてもらえたらと思います。よろしくをお願いいたします。

はい。ありがとうございます。では、ニーズ調査につきまして、その他、ご意見等ございましたらお願いしたいと思います。

委員 はい。すいません。これ郵送で送られると書いてあるんですが、市として回収率はどれぐらいを予測されているのでしょうか。

事務局 前回は元気な高齢者に分けて回収率は53.8%で、要支援者の方で63.8%となっております。これはその程度を60%前後あたりの回収率で今回も考えております。

会長 高いですね。よく最近ですと30%ぐらいしか来ないという調査が多くて、調査になっていないという意見がよく出ますが、60%ぐらいあれば統計の分野では成立するというふうに信頼性妥当性があると言われますので、それぐらいできたら、もうちょっと言うともっとあるとありがたいなと思いますけども、またよろしくをお願いいたします。ありがとうございます。はい。その他いかがでしょうか。

委員 4ページの「年数回以上、図書館に行きますか」という新しい問いということですが、最近、各小学校とかコミセンとか、色んな所に移動図書館を活発に今取り組まれていまして、かなりの貸し出し数を伸ばしてはりますので、この図書館というのは移動図書館を含むというようにした方がいいのか 図書館の本店ではないですが、図書館でしか駄目なのか、その辺がどちらかわからないと思いました。以上です。

会長 はい、いかがでしょうか。これ最初に本を借りにっていうことと、街の市民の人の憩いの場とか交流の場っていうこともあるんだったんですが、移動図書館は私が使ったことがないので、移動図書館も含む感じでしょうか。

事務局 想定をしていましたのは、蔵書を探すという移動するという行為ですね。人口当たりの図書館の蔵書が多いと介護度が下がっていくという研究データがありましたのでそれを想定しており、ご指摘のように実は混同される可能性があるので、事務局の方で改めて考えさせていただきますが、もしも含まないという判断をした場合は、移動図書館を含まないという感じでさせていただきますと思います。

会長 はい。ありがとうございます。ここ、年数回以上で、例えば0回と何回って区分した方がいい。多分そのデータを私も見たことがあるのですが、これだと、「ある」「ない」ですので、できたら1回だけとか、1～2回とか、それと数回ってことで分けておくと後で本のデータと照合して活用する時に使えそうな気がしますので、マストじゃないですが検討してもらえればと思います。はい、ありがとうございます。お願いします。その他どうでしょうか。はい、ではまた後ほど何かあればということでお願い

したいと思います。

それでは次の調査ですね、在宅介護実態調査の実施につきまして、こちらも JMC 様からお願いしたいと思います。

JMC

ありがとうございます。では続いて、在宅介護実態調査についてご説明いたします。資料の方は資料 5「在宅介護実態調査」と 1 番上を書いてある調査票を手元にご準備いただければと思います。先ほども申しましたが、この在宅介護実態調査につきましては、要支援・要介護認定をお持ちの方で介護が必要な方に対して、高齢者に対して行う調査となっております。調査票自体は大きく分けますと、A 票と B 票の 2 つのパートから見ております。こちらも国の方で定められた設問がありますので、市の独自の設問で新しく新規に追加するところを中心にご説明できればと思います。

では、2 ページです。表紙をめくっていただきまして 2 ページの方をご覧くださいませでしょうか。まず、こちらが A 票になりまして、A 票は世帯の累計ですとか、家族や親族から介護があるかといったところ、また、色んなサービスを使っているかなどを聞く設問、ご本人さんに関する設問が設定されている部分となっております。では、A 票の中で新しく設定した部分についてご説明いたします。めくっていただきまして、4 ページの間 16 と 17 のところをご覧くださいませでしょうか。4 ページの間 16 と 17、こちらは先ほどニーズ調査と共通の項目となっております、この災害時に関する設問を在宅介護実態調査もニーズ調査と共通で新規に追加したところとなっております。

続いて 5 ページの間 18 から 21 番が新規に設問が追加されております。先ほど、今回の計画策定において認知症施策推進計画というのも一緒に策定することになったとお話をさせていただきましたが、この認知症施策推進計画においては認知症の当事者の方の意見を大切にすることが求められております。在宅介護実態調査というのは、その要支援・要介護認定を持っている方を対象にして行う調査となっております、その中には認知症の症状を持っていらっしゃる方も含まれています。そのため、認知症の人から見て間 18 から 21 のように「自分の思いを伝えることができていると思うか」や、「何かしらの役割を果たしていると思うか」「自分らしく暮らせていると思うか」や、「自分が望む生活が継続できると思うか」を聞く設問を設定しております。これらの項目は、国の認知症施策基本計画という国の計画がありますが、こちらの重点目標の指標にもなっています。

続きまして A 票の下の間 22 番、24 番を新規に設定しております。こちらも認知症関連に関する部分として、認知症になったからといって何もできなくなるわけではなく、楽しみを見つけたり、いきいきと暮らせる社会が必要、大事ということで、間 22 は楽しみにしていることを聞き、間 23 では安心して過ごせる場所、そして、間 26 ではやりたいことの有無といったことについて新規に追加しております。

そして、6 ページをご覧ください。6 ページ、間 25、こちらはニーズ調査と共通の設問となっております、認知症政策を進めていく上でどのようなことに重点を置くべきかということをお聞きする質問も今回新設いたしました。

では、続いて 7 ページをご覧ください。7 ページからは B 票ということで、主な介護者の方に関する設問となっております。こちらも新規に設問を追加した部分について 2 つございますので、そこをご説明いたします。

8 ページをご覧ください。8 ページの 1 番下にあります間 10 で、主な介護者の方は認知症の疑いを感じた場合、誰に最初に相談・受診すると思いかということで、認知症早期発見、把握するためにこういった設問を新規に追加しております。

続きまして、9 ページの間 11、こちらも新設されておまして、主な介護者の方は認知症の方を介護する場合、行政からどのような支援があればいいと思いかという設問を新規に追加しております。認知症関連の設問が新規に追加されたのが在宅介護実態調査でございます。在宅介護実態調査のご説明は以上になります。

会長

はい。ありがとうございます。では、こちらにつきましても質疑を深めていきたいと思いますが、こちらでは番号とかを区切らずに全体的なところでご意見を賜ればと思っております。4 名の委員の方からお願いしたいと思っております。初めに委員から

お願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

委員

全体の質問としてはこれで良いと思います。問 16 の地震・風水害などの災害に対する対策ですが、普段の訪問入浴介護サービスの方に従事させていただきまして、その中には色んな、寝たきりの人がほとんどという中で、もしもこういった災害が起きた時に避難する方法が課題というのは思っておりますけれども、最近、BCP 関連の会議に出させてもらうことがあって、そこで思うのが、その介護サービスをする側も意識を、もし何か自分に起きた時の対策っていうこの危機感がすごく低いと感じていまして、BCP とか最近策定されたものがまだこれからなのかなと思います。いつもこういった災害というのは起きるか分からないところがあるので、こういった対策の課題は色々あるのかなと思いますけれども、そういったことに今、会社としても取り組んでおりますし、地域全体でもそういった避難方法とかを、もう少し確立できる方法があればいいのかなと思っています。以上です。

会長

はい、ありがとうございます。では、お二人目ですね。お願いいたします。

委員

在宅介護というのは、私は少し専門外ですので、シルバー人材センターの立場として参考までにくらいしか言えないですが、実は世間の方が思っている以上にシルバー人材センターが高齢化しておりまして、会員数も全国的に減っています。65 歳の定年義務化とか、70 歳の努力義務化とかもありまして、だんだん減ってきています。ただ、実は近江八幡市のシルバーだけが非常に増えています会員さんが。男性が現在、75.4 歳、女性が 75.1 歳です。それが現状です。だから、先ほど他の委員さんも言われたように、みなさん寄る場所がないということで、仕事をしに来るだけではなくみんなで集まりたいというそういう事情があって来られる方が私が責任者になってからここ 5 ～ 6 年で相当増えています。だから、ここ 2, 3 年で方向性も少し変えて、お仕事だけではなくみんなで寄る場所を提供するという形で同好会として、そこで高齢者の方もシルバー人材センターの会員さん自体はもう後期高齢者ですが、皆さんの希望で寄る場所を提供するという形に変えてきています。多くの方が入っておられるとは言っても、いわゆる入会率は 60 歳以上になりますが、人口に対する入会率は滋賀県で 1 番低いのが大津市で、次が草津市だったのでしょうか、そして高島、近江八幡市は 4 ～ 5 番目ぐらいで入会率が低いです。これやはり都会化しているのが原因かなと思いますが、そういうこともあってなかなかセンターの方向性は難しいとことがありますけれども、それで成り立っているのはこれから難しくなっていくのかなと今皆さんの話を聞いたり、色々な資料を見る中でそういうふうに感じています。

それと、さっきの話に戻りますが、「在宅生活を続ける上で何か利用したいと考えるサービスはどれですか」で、圧倒的にこれも他の委員さんが言われたように、圧倒的に多いのは草刈なんですね。近江八幡市で多分、空き家がすごく増えている。特に、市内中心部、すごく増えています。もう誰もいらっしゃらないお家なので草刈りだけしてほしいという依頼がたくさん増えています。あと依頼者も、電話していただいて草刈りなど依頼をしてくださるのですが、電話でお話していても少しうちの職員が聞き取りにくいというか、会話がおぼつかない方が大変多い。そういう事情が今、私どものセンターで、私が責任者として感じていることですので、参考までに、これしか言えないのですが、以上でございます。

会長

はい。ありがとうございます。続きましてお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

委員

よろしくお願いいたします。民生委員になりました部分を質問等はできないですが、年間の業務の紹介としまして、代表者が 75 歳以上など、同居・独居の方や、80 歳代で家族と同居されている方、昼間は家族は仕事に行っておられて高齢者の方が 1 人で住んでおられる方を対象といたしまして、登録票を持って行って、調査管理をしております。それと、友愛訪問活動とかもやっております。かなり高齢者が増えてきておりますので、皆さん十分に注意していただきますようにという、そういう活動をメイン

でやっております。以上です。

会長

はい。ありがとうございます。ではこの調査で最後になりますが、お願いしたいと
思います。よろしくお願いいたします。

委員

介護相談員の現状は少しスタッフが高齢化し人数も少なくなり、現在は施設を利用
されている方と、そして、施設側の管理者と両方のお話を聞いてより良いサービスが
現状少しでもアップすればというようにすることも必要ですけれども、皆さんが実際
には大変厳しいものがあります。スタッフが少ない状況が、また、施設側にも職員が
減っているということもありますし、なかなかより良いサービスをということで私共
も、このアンケートから出てきた少しでも利用者の問題点、その状況を汲み上げて、
そして、利用者と管理者と相談してやっていく、これが仕事なんで、なかなかこの設
問について何かどうこう言うことがないですけれども、介護者と、そして、また利用
者の両方の意見をこのようなアンケートから汲み上げてやっていきたいと思ってお
りますが、現状はなかなか難しいです。

会長

はい、ありがとうございます。4人の委員方に質問させてもらいまして、ありが
うございます。まず、災害の時の避難方法ということでなかなか危機感が低いとかあ
りましたが、本当に普段の業務自体もすごく大変な介護で、私も現場だと障がいの方
ですが見させていただく中でやはり本当に仕事が大変で、その中で災害が起こった時
のことまでというのはなかなか難しいと思ったりします。ですので、今回、アンケー
ト項目から、是非これを現場の方でもこういうことをしておけばいいとか、こういう
項目で上がってきた課題などをできたらお伝えさせてもらって、全部で1から10まで
するのは大変ですので、ポイントを押さえたところだけでも伝えるようなアンケート
に是非していきたい、してもらえればなというふうに思っております。

2つ目ですが、7年間お疲れ様です。長いなと思って聞かせてもらっていました。
すごいですね、人数が増えているって。大津市ですけども、やはり大変大変って人
が減っているとか、活動はできないということが多いですが、やはり集まりたいとい
う気持ちでこうやって集まってもらえるということで、会の活動なども色々工夫され
ているのだらうなと思ったりしながら聞かせてもらいました。草刈りが多いというの
もありましたように、期待されている働きは多いと思いますので、さっきのニーズ調
査になるんですが、そうした生きがいや、やりがいのところに何か反映できればして
もらいたいと思いながら聞かせてもらっていました。やはり、健康を回復していくた
めにこうした介護活動は、医療に頼るだけではなく大事だと思いますので、できたら
これが少しでも良いものになるように、もう少し工夫を加えたらなと思っております。
ありがとうございます。

民生委員さん児童委員さんの話がありました、よくお世話になっております。本
当に役割が多く、してもらおうことが多いなと思いながら、地域の方でもよく感謝する
と同時に、人数をどうしようという話が出てきたりはしています。避難の項目につ
いてご意見をいただきましたが、避難行動はとても大事なことです。意外とそこまで気
が回らないことも多かったです。こちら是非活用できるものにしたいと同
時に、先ほどもありましたがこういう友愛活動ですとか、そうしたことのデータなん
かも集計時に活用で取り入れるように時間があれば、せっかく登録票のこととか使っ
てもらっているわけですので、そちらのデータも市の方で共有できれば、最後まと
める時に少しでも取り入れてもらえると、より使いやすいとか身近に感じてもらえるよ
うになるのかなとは思ったりしています。マストではないですが参考にしてもらえばと
思います。

最後に、委員の方からスタッフ高齢化とかいう話がありました。よく他のところ
でも近江八幡市は結構有名で、早くから相談員さんを使っていて、コロナの前も
すごく活動もされていて評判が良かったりいたします。私も3期ぐらいからずっと委員を
させてもらっていて、30歳ぐらいの頃からずっと長くなって、当時からよその市町
だけじゃなくて他府県からもよく来ていまして活動も評価されております。施設さん
なんかでも、毎日忙しいこともあって申し訳ないと言われることも聞くのですが、

効果はありますのでこれから是非、活動できていないということはないですので、できたらまたご意見なんかもこれから活発に出してもらって、メモとかもシェア出来ると思います。また、よければずっと参考にしてもらえたらなと思っております。よく私もメモにいつも目を通してあるので、色んなところで。価値があります。本当に出来ていると私なんかも感心しております。ありがとうございました。

では、在宅介護実態調査につきまして、説明してもらった、質問してもらった委員だけでなく含めて質疑、質問等ご意見ございましたらお願いしたいと思います。いかがでしょう。はい、お願いします。

委員 この在宅介護のニーズは私達の業界から一番知りたい内容になるんですけど、先ほどのニーズ調査で学区毎に結果を欲しいという話がありましたが、こちらに関しても、事業所に対してこういうニーズがあるよという結果の報告をしていただけるのでしょうか。

事務局 事務局の方山です。ありがとうございます。ニーズ調査と比べまして、在宅実態調査の件数が4分の1で、1000人あたりなんですね。そこから回答率が1000人ぐらい対象で6割ぐらいなので、件数自体が少ない中で学区別に見ると数人の意見によって左右されてしまう、統計上、学区を分けると見誤るというか特徴がない偏った意見が反映されてしまう可能性があるんで、市全体としてはまとめさせていただきますが、お時間をいただきますけれどもご提供させていただきます。

会長 ありがとうございます。多分全体の方が欲しいですよ。です。で、出来上がった時、結果の概要版があると思うのでそちらを1冊送ってもらうとか、できそうですか。

委員 学区にはこだわらないので、市全体としてのニーズがどういうものがあるのかというのを知りたい。

事務局 今回の調査の結果ということでよかったでしょうか。

委員 はい。

事務局 前回の、今回の、どちらがよろしかったでしょうか。

委員 今回ので。

事務局 わかりました。ありがとうございます。

会長 多分、概要版は委員に送ってくれましたよね。なんかよく考えたら、何年も前で私もすいません、忘れかかっていたけど。

事務局 概要版は郵送させていただいておりますので。

委員 はい。分かりました。

会長 その他いかがでしょうか。はい。お願いします。

委員 よろしくお願いします。設問に対してどうのというのは全くないんですけども、この1番表紙の「ご記入に際してのお願い」というところで、ご本人、家族、または担当しているケアマネジャーが代わりに回答してくださいみたいなことが書いてありますが、僕もケアマネジャーをしているのですがケアマネジャーの事業所に対してそういう依頼があれば、代わりに回答してあげてくださいみたいなことも言うてくれるのか、多分次の調査の中にもあると思うのですが、ケアマネジャーの事務量が多いみたいな設問があるので、その事務量が増えてしまうとモチベーションが下がるケア

マネージャー、僕は全然良いのですが、やはりそういうケアマネジャーもいるかなというところで少し気になりました、すいません。

会長 すみません、事務局いかがでしょうか。

事務局 ありがとうございます。前はケアマネ事業所様に「調査へのご協力のお願い」という文章を発送させていただいておりましたので、今回も同様に考えておりますがそれでよろしいでしょうか。

委員 すいません、あるかないかだけです。ありがとうございます。

会長 はい、すいません。回答率 60%を少しでも上げたいですので、大変だと思いますがお願いいたしますということで学校の先生方もよく色々な調査が来て大変と言ったりとか、私も大学終わっても、今日も朝起きたら2つ3つ文科省から来ていて、心の中の声は色々ですけど事務局には喜んでと書きましたけども、大変なところですがすいません、是非ご協力お願いいたします。

委員 回答率を上げるためにもやはり皆さんに協力して欲しいなと思ひまして、依頼文でもあればいいかなと思ひました。

会長 こちら是非よろしくお願ひいたします。やはり依頼文がないとね、なかなか受ける印象も変わってくるかと思ひますので、是非お願ひいたします。ありがとうございます。その他、いかがでしょうか。よろしいですかね。それでは次の調査に行きたいと思ひます。介護支援専門員さんの調査の実施につきまして、こちら JMC 様から説明をお願ひいたします。

JMC はい。では、続けて失礼します。介護支援専門員さんへの調査ということで、資料 6 と書いてあります、一番上に介護支援専門員調査票と書いてある資料をお手元にご準備いただければと思ひます。こちらにつきましても、少し申し上げるのが遅れて申し訳ないですが、この4つの調査、3年前に調査を実施しておひまして、前回との比較っていったところ踏まえまして、基本的な大きいところは変わらないですが、新しい項目などを追加している、そういった状況になっております。

では、介護支援専門員調査についてご説明させていただきます。介護支援専門員、ケアマネジャーさんの調査につきましては7つのパートにわかれておひまして、今回、新規項目を中心にご説明いたします。まず1ページをご覧ください。1ページは、あなた自身のことについてということで、ケアマネジャーさんの経験年数ですとかそういったことについてお聞きする設問が設定されています。

新しく新規に追加したものは3つござひまして、2ページをご覧ください。2ページの間7、こちらは、元々仕事に働きがいを感じておりますかという設問があつたのですが、そこで働きがいを感じないという場合の理由というのはどういったところにあるのかお聞きする設問を問7で追加しておひます。

そして、3ページをご覧ください。3ページの間9、こちらは元々、ケアマネジャーとして今後も働きたいと思ひますかという質問があつたのですが、働きたくないと回答いただいた方について、その理由はどういったところにあるのかをお尋ねする質問を問9で追加しておひます。最後に問10のところで、日本学生支援機構、交通遺児育英会、あしなが育英会などから、ご自身の名義で借入れを受けておりますかという質問、設問を追加しておひます。

では、4ページをご覧ください。ここではテーマが市内の介護保険サービスについてということで、設問は1個、1つしかないんですけども、近江八幡市内で、量的にも不足しているというサービスはどういったことですかということをお尋ねする質問があります。今回は、選択肢を総合事業などを含めて調整したりしておひます。

では、5ページをご覧ください。5ページからは、ケアマネジャー業務について課題や負担と感ずること、また、行政に期待することはどういったところなのかについての

設問が設定されております。今回、新規に追加した項目がいくつかございますのでご紹介いたします。

では、6 ページをご覧ください。6 ページの間 16、これは元々あった設問ですが、選択肢 12 番「事業所運営に対しての補助金」、13 番「介護支援専門員更新研修費用の助成」といった経済的な支援の選択肢も今回は追加しております。また、間 17 から 20 にかけては、生産性の向上に関する設問を新規追加しております。本当に忙しい中と思いますが、そういった生産性の向上に関する取り組みについて、ケアマネジャーさんのご意見をということで新規に追加しております。

では、8 ページをご覧ください。8 ページは介護保険以外のサービスをケアプランに盛り込むことの状態や、そういったサービスをケアプランに盛り込む時に苦勞されていることについて聞く設問になっております。ここは大きく変更はございません。

では、10 ページをご覧ください。10 ページは医療との連携について、こちらも変更は無いですが医療の連携状況等について聞く設問となっております。

11 ページをご覧ください。11 ページは上の方が地域包括支援センターとの連携についてで、特に変更は無いです。包括との連携の状況についてお聞きする質問となっております。

そして、最後のパートが高齢者支援の状況についてで、11 ページから 12 ページにかけて高齢者支援全般の状況についてお聞きする質問となっております。今回、新規に間 30 を追加いたしました。ここでは身寄りのない高齢者への支援として、困られていることはありますかという質問を新規で追加しております。近江八幡市の状況としましては、高齢者の単身世帯というのが増加している状況になっておりまして、具体的には 5 年前の令和 2 年の 10 月 1 日では、高齢者単身世帯は 5002 世帯だったんですが、直近、今年の 9 月 1 日からその前の 9 月 1 日の時点では、5789 世帯というふうになっていまして、大体 800 世帯ぐらい高齢者の単身世帯が増えている状況になっております。単身世帯だから身寄りが無いというわけではないですけども、今後のことも考えていくために新規の設問を設定したという状況になっております。ケアマネジャーさんの調査については、ご説明は以上になります。

会長

はい。ありがとうございます。では、今の件に関しまして質問していきたいと思えます。ではお願いいたします。

委員

ありがとうございます。ケアマネジャーに詳しいアンケートをしていただけたということでありがとうございます。まず、間 7 のところで、今の働きがいを感じないと回答されていた方の理由が聞けていなかったのかなというところで、その理由まで聞いていただけたということで、すごくありがたいといえますか、働きがいを感じていた人が働きがいを感じられなくなる出来事がきっと起きているのではないかっていうのを思いますので、この項目は非常にどうしたら、どうしていったら近江八幡市の介護支援専門員が増えるのかとか、いきいきと働けるのかというところに繋げていけると思いますし、間 8 のところも「働きたくない」と思われる方もその理由というのはどういった感じなのかと思います。あと、うちの事業所も 1 人でやっていたのですが、8 月から少しスタッフが増えて、お子さんが小さい方もいらっしゃるの、やはり働きやすさっていうのは非常に大事ではないかと思っております。あと、ごめんなさい、この間 10 の「日本学生支援機構、交通遺児育英会、あしなが育英会などから借入れを受けているか」という質問に関しては、これはどういう意図で聞かせているのでしょうか。

事務局

市の方にもそういった関連ですね、奨学金っていうのを借りられているっていう現状はわからないのですが、よその県外ですけども、大きい自治体、一部の自治体では、その借入れに対して一部を補助して継続して仕事に取り組めるようにということで、借入れ金を補助している自治体もあるということがありますので、これを聞いて今すぐにつけていうわけではないんですけども、どれくらいの規模の方がそういう借入れ金を借りて介護のサービスを提供されているのかということを知りたいと思ひまして、改めて付け加えさせていただきました。

委員 働いているご本人が借入れをしているという、それは自分自身のために・・・？

事務局 お金を借りないと、なかなか資格を取れない。そういう方です。

委員 わかりました。ありがとうございます。そうですね、不足しているサービスも聞いてくださっていて、多分この辺もヘルパーさんの報酬が下がったりしていますし、私達も在宅で要介護 5 とか重度の方を支えようと思うと、毎日ヘルパーさんに頼まないといけないけれどその調整がつかない、どの事業所もお願いしても断られるっていうことがありますね。そういったところも聞いて頂ければいいのかなと思います。

あとは業務の中での課題で、さっき介護保険の実態のところでも 65 歳以上の方に絞ってのデータしか出ていないですが、私達 40 歳以上の方を基本的には特定疾病の方なんかは 40 歳以上になるので、結構増えてきている印象です。そうすると制度にまたがって障がいの方の制度もご利用になられる方であるとか、高齢者もそうですが、皆さん障害者手帳を取りたいだとか、障がいの方のサービスも併用しないと生活が成り立たないっていうことで障がい福祉課さんであるとか、福祉政策課さんとか、困窮の方ですとそういったところとも連携をとっていかなきゃいけないっていう事例も非常に増えていまして、そうすると、私達も動きが煩雑になったりとか、制度が違うのでケアプラン 1 つにしても、申請 1 つにしても障がいと介護では手順が違ったりして、それを家族が出来ないことをケアマネジャーが代行する場面も非常に増えているなというところで、業務量的には増えているところです。

あとは、生産性向上のところは、私達ケアマネジャーも多分皆さんどこの事業所さんも、いろいろ情報連携であるとか ICT の活用というところで、うちは MCS って言ってメディカルケアステーションっていうシステムを導入していまして、1 人 1 人のケアマネジャーの担当利用者さんに、利用者さんが使われているサービス事業者と MCS というツールを使って、パソコンであるとか iPad の中で連絡を取り合うことができるツールを使ったりして、少しでもペーパーレスであるとか、情報を早く打って早く利用者さんのために動けるようにと取り入れているので、こういったことを聞いて頂きたいですし、そういうところにも費用がかかるので補助していただけるようなことがあれば、事業所としてももっと利用者さんのために手厚く動くことが、少ない人数でもこえていくことができるのかなというふうに思います。

保険外サービスに関しましては、盛り込みましょうという方向としてはなっているので、私達もプランに盛り込むよう努力をするんですが、なかなか安い価格で良いサービスを提供してくださるような事業所っていうのがどこにあるのか情報が無いです。そんな中で悩むことが多いというところです。

あとは介護支援専門員の横の繋がりが全く今無い状況なので、介護支援専門員の連絡協議会のようなものは出来たら他の市町のように市の方で主導でやっていただけるのであればありがたいなと思っているところです。以上です。

会長 はい。ありがとうございます。では続きましてお願いいたします。

委員 先ほど少し質問したので今回は簡単だと思いますけれども、僕も小規模多機能という事業所でケアマネジャーをしているんですけども、こんだけ詳しく聞いていただいて本当にありがたいなというふうに思います。特に問いの 35 を追加して下さるっていうことですが、この身寄りの無い方っていうのがかなり増えてきているなというのが僕自身、働いてる中でひしひしと感ずるところなんですけれども、その部分で、人にはよるとは思いますが、微妙にお金の無い方とか、生活保護を受けてないけれども生活をしていく、サービスを受けながら生活をしていくのが少し厳しいかなみたいな感じの方が結構あることが多いので、こういう設問があるのは凄くありがたいなというふうに感じました。

あとはケアマネジャーの質を上げていくっていう、繋げていくっていうものかなと思うのですが、主任ケアマネを取るための更新をしていくための研修みたいなものが必要になるんですけれども、一応、行政に期待することっていうところでその研修会

や講演会の実施などを書いているんですけども、そういうのをしていただけるとありがたいなと思っていますし、さらにその、今であれば Zoom とかオンラインでの研修というのも可能だったりすると思いますので、出来る限り生産性向上を見据えながらの対応というのは期待させていただきますのでよろしくお願いいたします。

会長

はい、ありがとうございます。今のお話にもありましたけど、保育職とか介護職には色んな奨学金とか返済免除とかあったりしますので、こちらについてもまた広げていこうということで、また良い方向になればなと思っています。

今、研修の話がありましたけれど本当にこういうことってすごくよく案が出てきますので、具体的にどういうことが必要なのかという、研修があるのかということがこれで明らかになればなというふうに思います。はい、お願いいたします。

委員

すいません。医療連携のところで MCS を使っているところもあって、利用して連絡を取ったりしているんですけど、薬局の方としてもなかなかそんな電話をして聞くほどのことではないけれど聞きたいことが利用者さんのことであつたりとか、こうやっていこうとして進行してますとか報告したりするのにメインに使っているんですが、行政の方で介護でこういうような MCS を使っていくので、医療の方も同じものを使ったらどうですかなど、何かしてくれはると何個もそれ用のアプリを入れたりとか、そうするとまた使いにくくなってしまうので、そういうような何か旗振りを行政の方でやる、なんか押し付けで申し訳ないんですけど、そういうのがあればもっと便利になっていくんじゃないかなと思っています。

会長

ありがとうございます。はい。ではですね、次の方にいきたいと思います。介護保険サービスの参入意向調査の実施につきまして、こちら JMC 様からお願いいたします。

JMC

はい。お願いします。では最後の調査票になりまして、資料 7「介護保険サービス等参入意向調査 調査票」と書いてある資料、お手元にご準備いただけますでしょうか。こちらは介護保険のサービスをされている事業者への調査となっております。こちらの調査は大きく言いますと 2 つのテーマにわかれておりまして、1 つは今後展開を考えているサービスについてお聞きすること、そして、もう 1 つは介護人材の不足ですとか、生産性向上に関するテーマという大きく 2 つのテーマというのがございます。

簡単にご説明いたします。まず、1 ページをご覧ください。問 1 というのが、今の介護保険計画は 9 期ですけども、令和 9 年度から、9、10、11 年度が次期計画の 10 期の計画期間になりますが、この期間中に展開を考えているサービスについてお聞きしていますのが問 1 になっております。少し総合事業に関する部分についても選択肢を調整しております。

続きまして 2 ページ、問 2、こちらは事業所の介護職員の数ですとか、採用や離職の状況について聞く設問となっております。これは特に変更はございません。

4 ページにお進みいただきまして、問 3、ここは介護職員の不足状況やその理由について聞く設問が、この問い 3 のシリーズとして設定しております。今回新設いたしましたのが、5 ページをご覧ください。5 ページの 1 番下の問 3-3 の説明になっておりまして、介護職員が不足していると回答された事業者の方に、人員配置基準の職員数を確保できなくて、利用者の受け入れ制限を行わざるをえないといった状況があるのかについてお聞きする設問を追加しております。

続きまして 6 ページをご覧ください。6 ページのところでは問 5 から 6 にかけてまして、3、幅広い人材の採用というところで、障がい者やシニア層、子育て等の勤務時間に配慮を要する方、また、外国人の方といった幅広い人材の採用について、現状の意向について把握する設問となっております。

では、7 ページをご覧ください。問 7 は新設の設問になっておりまして、その介護現場におけるハラスメントの問題というのは、職員の離職に繋がる深刻な問題としてありまして、そのハラスメントの状況について把握する設問を新設しております。ま

た、問 8 から最後の 11 までも新設した設問になっておりまして、生産性の向上に関する設問をケアマネ調査と対応した形になっていますが、生産性の向上に関する設問を新設させていただきました。以上が参入意向調査についての説明になります。

会長

ありがとうございます。こちらにつきましてご意見よろしく願いいたします。

委員

よろしくお願いします。私、今勤めているところが特養併設のデイサービスですの
で、介護サービスの新規の採用っていうのは、現状のところ法人としては考えてはい
ないです。1 つはやはり人員不足というのはかなりありまして、現状のサービスをど
うして維持していくかということが 1 番大きな課題です。人員配置に基づくという
ところの項目があったと思いますが、そこを維持するのがやっとなさという感じです。
受け入れ制限はやりたくない、やってしまうと 1 番困るのは利用されている方になる
ので、そこを制限をしないで今のサービスを継続していくため、かなりギリギリぐら
いまでやっている形です。今、人材の採用に関しては問 6 に書いてある 1 から 4、全
て採用はしています。もう今、外国人の受け入れをしている施設はかなり増えていま
して、うちでも今第 4 期で中国からベトナムからっていうことで、色んな国の人が来
てくれています、それで回っているのかなっていう部分と、やはり言葉とか色々あ
るんですけど、日本でしっかり働きたいっていう思いを持って来ていらっしゃるので、
本当に戦力として頑張っていていただいております。

生産性向上に関しても色々取り組みを始めているところで、情報がなかなかホー
ムページとかを見ても詳しいことがわからない中で、他の施設が取り入れている情報
をお互いに交換をしながら、ここの業者が良いとか、こういうシステムが良いとか、
こういう形で取り入れたらどうというのを連絡会とかを作ったりしています。
それのもっと幅広く教えてもらえることがあればいいなと思っています。

今、新規の参入はなかなか難しいので、今既存のサービスの下で手伝っていけるこ
とを話していくということで、先ほど質問させてもらったのは、本当に家族とか本人
さんのニーズがどこにあるのかということを私達は 1 番知る必要があるため、1 番興
味があって聞かせていただきました。以上です。

会長

はい、ありがとうございます。まずは人材のことで、ものすごく大切なことがわか
りますので、こちらで詳しくと思います。6 ページの問 5 で、今話題にありましたけ
ど、障がい者とか、できましたら身体、知的、精神、精神と発達は分けるかどうかあ
るかと思うんですけども、全然知的と身体と精神で違いますので、できたら横づけで
もいいので細かく聞いてもらえばと思います。付け加えてお願いいたします。はい、
ありがとうございます。

思った以上に委員の先生方の意見が出まして、一旦ですね、もし何かありましたら
後ほど、また事務局に言っていただくという形でお願いしたいと思います。それでは
最後ですね。今後の日程等につきまして移らせていただきます。市民協議会運営スケ
ジュールについて事務局から説明お願いいたします。

事務局

そうしましたら資料 8 についてご説明させていただきます。令和 7 年度のスケジ
ュール予定ということで、本日のこの会議で頂きましたご意見等を参考にその後、各種
調査の項目を確定させていただきまして、11 月、12 月あたりで実施していきたいと考
えております。その後、令和 8 年になりまして、これもまだはつきりは決めてはいな
いんですけども、2 月頃に第 2 回会総合介護市民協議会を開催させていただく予定を
しておりますので、また詳細が決まりましたら連絡を送らせていただきます。よろし
くお願いいたします。年を明けてから調査をもう一つだけ、事業所さん向けの調査を
実施することを考えておりますので、よろしくお願いいたします。以上になります。

会長

はい、ありがとうございます。ただいま説明をしていただきましたが、今回の意見
を取りまとめでいただきまして調査項目を確定しまして、11 月頃に調査を実施でき
るように進めていくということになっております。結果につきましては、第 2 回の協議
会にご報告予定となっております。令和 8 年 2 月に予定しております。詳細につきま

してはまた調整のほどよろしく願いいたします。では、事務局の方にマイクをお返しします。

事務局

安田会長ありがとうございました。本日の議事は全て終了いたしましたので、委員の皆様、最後まで熱心に審議の方いただきましてありがとうございました。それでは閉会にあたりまして、事務局よりご挨拶をお願いします。

皆様、本日は長時間にわたりご協議いただきまして、また本当に貴重なご意見いただきましてどうもありがとうございました。

今回見ていただいたアンケート、これを実施することで、また今の地域の現状や課題というのが浮き彫りになってくると思います。またそれを踏まえて、委員の皆さんにご協議いただきながら10期計画に向けて、良い計画を作っていきたいというふうに思いますので引き続きご協議いただきますようお願いいたします、終わりの挨拶とさせていただきます。どうも本日はありがとうございました。